

(様式 1)

県立結城第二高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和 7 年度）

総合的な探究の時間の第 1 の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、課題を発見しよりよく解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

これまでの学校生活で個性・能力を十分に発揮できなかった生徒たちに対して、「人とつながるオンライン・みんなが資源、みんなで支援」を基調とし、以下の学校像を目指す。

- 1 個に応じた指導を通し、向上心を高め、自己実現を目指す学校
- 2 自己肯定感を培い、自他を理解・受容し、社会性をはぐくめる学校
- 3 地域社会と連携し、いつでもだれでも学べる、地域に開かれた学校
- 4 本校に携わるすべての人が Well-Being であるために、自他を尊重し、互いに長所を生かして物事に取り組める学校

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、より良く社会で生きていくことを目指し、自他にかかわる課題発見と解決ができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

- (1) 自己を理解（メタ認知）し、その上で地域や社会の人、もの、ことに関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付ける。
- (2) 地域や社会の人、もの、ことと自分自身との関わりから問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査をして得た情報を基に分析したりする力を身に着けるとともに、考えたことを適切に表現する力を身につける。
- (3) 地域や社会の人、もの、ことと自分自身との関わりに関する探究活動に主体的・協働的に取り組み、社会に貢献しようとする態度を育てる。

総合的な探究の時間の学習評価

〔評価基準の設定について〕

1. 年間計画を基に、その時期に育成されるべき資質・能力を設定する。
2. 1. を基準にルーブリックを用いて評価の観点と評価基準をステージ別に作成する。

〔多面的な評価のために〕

- ・ポートフォリオやキャリアパスポートを利用したステージ毎の評価
- ・評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価
- ・学習や活動の状況などの観察記録による評価
- ・中間発表や進捗状況共有の場での表現による評価
- ・探究課題が地域や社会の人、もの、ことに及ぶ場合の保護者や地域社会の人々による第三者評価

〔学習状況の過程を評価するために〕

- ・各ステージ内に小さな PDCA サイクルを織り込み、その都度、振り返りと課題、その対応策の見直しをする。
- ・評価基準の定期的な見直しや評価資料の検討を通して、評価の妥当性を常に高めていく。

生徒の実態

- ・社会のルールや人との約束を守ることができる。
- ・素直に目上の者の指示に従うことができる。
- ・不足がちなコミュニケーション力。
- ・発達段階の自己理解力。

生徒の発達をどのように支援するか  
○配慮を必要とする生徒への指導

- ・個に応じた指導
- ・生徒支援委員会
- ・ケース会議
- ・自立活動

目指す生徒の姿

- ・自分の意見を分かりやすく伝えることができる。
- ・相手の意見を丁寧に聞くことができる。
- ・自他を理解・受容し、社会性を発揮できる。
- ・向上心を持ち、自己実現を目指すことができる。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

探究課題：「自己理解から始まる職業の選択と社会貢献及び自己実現」

（1 年次）

探究活動の意義と方法を理解する → 各学校行事または地域や社会の人、もの、ことにおける自己の役割と課題設定、課題解決 → 自己理解

- (1) 教師の指導を受けながら、自己の得手不得手とその対処法を確認する
- (2) 教師の指導を受けながら、これまでの経験をもとに問いを見いだし、その解決のための方法を探り、実現のための情報を分析し明確化することができる。
- (3) 教師の指導を受けながら、協働的に課題解決へ取り組み、自己を見つめなおす。

（2 年次）

各学校行事における自己の役割と課題設定、課題解決 → 自己理解 → 他との関わりを踏まえた職業選択と社会貢献

- (1) 教師の助言を通して、各学校行事または地域や社会の人、もの、ことにおける自己分析ができる。
- (2) 教師の助言を通して、各学校行事または地域や社会の人、もの、ことにおいて課題設定し、その解決のための方法を探り、実現のための情報を分析し明確化することができる。
- (3) 教師の助言を通して、課題解決へ向けて取り組むことによって、適切な職業選択と社会貢献について考えることができる。

（3 年次）

各学校行事における自己の役割と課題設定、課題解決 → 自己理解 → 他との関わりを踏まえた職業選択と社会貢献

- (1) 主体的に、各学校行事または地域や社会の人、もの、ことにおける自己分析ができる。
- (2) 主体的に、各学校行事または地域や社会の人、もの、ことにおいて課題設定し、その解決のための方法を探り、実現のための情報を分析し明確化することができる。
- (3) 主体的・協働的に、課題解決へ向けて取り組むことによって、適切な職業選択と社会貢献について考えることができる。

学習活動、指導方法等

〔学習活動の例〕

- 1 年次：クラスマッチでの活動
  - (1) キャリアパスポートなどを活用し、過去における自己の反省を振り返る。
  - (2) 自己の得意分野を活かし、具体的なクラスマッチへの関わり方をイメージさせ、そこにおける課題と対処法を確認する。そして、それを他と共有し明確化する。
  - (3) 全体での自己の立ち位置を意識しながら協働的に取り組み、事後にどのように関わったか、次の行事にどのように活かすかを考える。
- 2 年次：進路ガイダンスでの活動
  - (1) 「進路適性検査」等で得た結果を活用し自己の職業における適正を理解するとともに、自己の興味関心の変化を振り返る。
  - (2) (1) の客観的な適正と自己の興味関心との整合性を図るべく、情報収集・分析を進め、自己の課題発見、解決へ向けての対処法を明確化し、表現する。
  - (3) 主体的・協働的に課題解決へ向けて取り組む中で、定期的に振り返りながら進捗状況を他と共有し、軌道修正を図りつつ前進することを目指す。
- 3 年次：社会人マナー講座での活動
  - (1) これまでのポートフォリオを活用し、高校生活における自己を振り返る。
  - (2) 社会人としての自分をイメージさせ、自己の課題発見、解決へ向けての対処法を明確化し、表現する。
  - (3) 主体的・協働的に課題解決へ向けて取り組む中で、定期的に振り返りながら進捗状況を他と共有し、軌道修正を図りつつ前進することを目指す。

〔指導方法のポイント〕

- ・教員側が、生徒個々の目指す姿をイメージし、適宜指導を加えながら課題解決へ導く。
- ・ポートフォリオを有効活用し、GOOD・BAD・NEXT を意識させることによって次の活動・振り返りへとつないでいく。
- ・1 年次からのつながりを意識し、自己理解からの課題発見・解決という流れを踏襲する。
- ・課題発見をする対象を、個に応じて段階的に既知の学校行事等から地域や社会の人、もの、ことへと STEP UP させる。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

- ・「総合的な探究の時間」について RPDC A を回す部署として「総合的な探究委員会」を設置し、探究活動を本校の教育活動の中核に据えるとともに、探究活動が適切に行われているか定期的に検証・評価・改善を行う。また、各教科との横断的な取組等について積極的に提案・実施していけるよう調整する。
- ・定期的に総合的な探究の時間についての研修会を実施し、全体の流れと單元ごとの反省を踏まえつつ、本校生徒の目指す姿、目標、資質・能力について検討する。
- ・対外的な行事（地域ボランティア、特別支援学校との交流等）を利用した探究活動の模索。